

# ふくしま未来デザイン

## 第2部 共生社会 ④障害者の社会参加

### 働くことが生きがいに

誰一人取り残さない社会を目指すために、地域の中で障害者が生きがいをもって働ける職場をつくることが重要です。「ふくしま未来デザイン」第2部「共生社会」第4回は、障害者が自ら職場を訪問し、就労への道をひらく活動をしてきた「NPO法人障害者の職場参加をすすめる会」(埼玉県)の尾谷英一代表理事(75)に、障害者雇用への取り組みや課題について伺いました。

障害者の職場参加をすすめる会  
代表理事

尾谷 英一氏

「障害者の職場参加をすすめる会」についてお聞きします。当会は、障害者、福祉関係者、ボランティア、研究者、雇用主などで構成されています。2004(平成16)年にNPO法人になり、05年から10年間、埼玉県越谷市の障害者就労支援センターの事業を受託、運営しました。就労の相談に訪れた障害者のうち、希望者には職場参加の支援をしてきました。中核を担うのは本部の事務所「職場参加ビューロー・世一」です。18年からは障害福祉サービス(jis)の就労移行支援事業を実施し、21年からは就労継続支援B型事業を併せた多機能事業所として運営しています。本部による職場参加の自主事業は形を変えて続けています。越谷市では市役所などで障害者の職場体験事業を行っています。これも私たちの

提案で始まったものです。就労支援は広がっていますが、職場参加支援を組み合わせる実施しているケースは全国でも珍しいと思います。

飛び込みで職業体験

活動について伺います。

就労支援センター受託時代に本部で行っていた「仕事発見ミッション」は、障害者が2人1組で地域の商店街などを「飛び込み訪問」します。短時間でも職業体験をする機会を積極的につくり出すことに努めてきました。一日30〜40件ほど回ります。ほとんど断られますが、それも社会勉強と考えています。コンビニの販売体験やガソリンスタンドの手伝いをするなどで、就労イメージが生まれ、職場、地域の敷居が低くなります。

障害者を雇用する立場から



おたに・えいいち 1947年、新潟県小千谷市出身。クロカンスキーの選手としてインターハイのリレーで活躍。77年、埼玉県春日部市にバリアフリーの自社工場を設立し、障害者雇用に取り組んできた。2022年から現職。



レストランで職場体験をする障害者(障害者の職場参加をすすめる会提供)

は、どうお考えですか。私の事業所は、靴底を作る小さな町工場で、事業を立ち上げた42年ほど前から、障害者雇用を積極的に進めてきました。現在は知的障害者4人を含む7人が働いています。彼・彼女らは、知的障害があっても、それぞれ得意な仕事を受け持ち、健常者以上の情熱と集中力を持って、仕事に打ち込んでいます。そして優しく、思いやりがあります。厳しい業界ですが、その姿に何度も助けられました。

スポーツで個性輝く

地域の人々と障害者の交流にも力を入れてきましたが、若い時からクロスカントリースキーをやってきて、インターハイのリレーで優勝したこともあり、スポーツを通じて交流すること、偏見の垣根がなくなっていくと考えています。休日

は、従業員とソフトボールをしています。そうすると、彼・彼女らの個性が輝き出し、仕事も長続きするようになってきました。それで健常者と一緒にプレーできるチーム「フレンドリー春日部」を結成し、全国障害者スポーツ大会でベスト4に入り

ました。街でも一緒に試合をした人に声を掛けていただけようになり、祭りでは縁日に出店し、地域との交流を広げてきました。現在はカヌーを使って、みんなで河川ごみの回収も行うなど、地域の人々が明るく暮らせるお手伝いを続けています。

障害者雇用に取り組む根本には何かあるのですか。

高校時代からクロスカントリースキーの良きライバルであった親友の存在です。彼は大学時代にスキージャンプ競技の事故で、半身不随になってしまいました。しかし、絶望的状况から人の何倍も努力を重ね、新潟リハビリテーション大学の教授にまでなった姿に、大きな勇気をもたらしました。人間の素晴らしさは、障害の有無ではないのです。それに加え、障害者たちが頑張っていると、多くの人が手が差し伸べてくれます。地域の人の優しさに支えられ、ここまで来ることができました。

今後について。

障害者と共に長年歩いてきて思うことは、働くことは、障害者の生きがいにもつながり、親たちにも安心感を与えるということです。職場参加支援は障害者への支援だけでなく、職場・地域が障害者と出会い、共に生きるための支援も大切な要素です。障害者雇用は、法整備も大きく進みましたが、彼・彼女らの個性と能力を無視した職業選択が進んでいるのを危惧しています。当会は、知的障害者の個性を生かすために地元企業での雇用確保に努力を続けてきました。地域社会を巻き込むことで障害者と健常者の壁がなくなり、誰にとっても生きやすい社会を実現する未来へつながると信じているからです。

### 食材提供で子どもたちの未来開く

「ばんげ市民活動サポートセンター」(加藤康明代表)

表)は2022(令和4)

年4月から、子育て支援活

動として子ども宅食事業を

実施しています。春休みや

夏休みにおける食事や弁当

の提供活動、ひとり親世帯

へのコメの提供事業のアン

ケートから、学用品提供や

給食費の減免などの公的支

### 市民活動

通じて応援したいと、本格的に子ども宅食事業を実施するようになりました。同事業は、毎月1回、おおむね最終土曜日か日曜日に実



事業

もう一つの活動は勉強会です。地元の住民たちが自分の能力や実力を発揮する場を確保し、地域の人材が

埋もれてしまふことがないようにするために、第18回公益信託「ふくしま基金」の助成を受けたことをきっかけに、住民有志を募り、20年5月に「SPPOG(スポック)」を設立。活動拠点として「ばんげ市民活動サポートセンター」を設置しました。住民に話し合いと、学びの場